第６回安来市適正配置審議会　議事録

１　審議会日時　令和４年１１月１８日（金）
２　開催場所　　安来市役所　防災研修棟
３　出席者等
（委　　員）上田　裕太（欠席）、田邊　憲明、加藤　寛通、恩田　集司（欠席）、川上　通子（欠席）
江戸　宣文（欠席）、原　義昭、大西　啓治（欠席）、奈良井　丈治、中尾　美樹夫
本山　禎彦（欠席）、北川　正幸、小松原　克己、作野　広和（欠席）、米田　健
池田　さゆり、田淵　秀喜、伊達　紗由里、板垣　学、福井　香衣
（事 務 局）
教育長　　秦　　誠司　　教育部長　　原　みゆき　政策推進部長　宇山　富之
教育総務課長　遠藤　浩司　学校教育課長　三保　貴資　地域振興課長　石井　美佐子
教育総務課係長　青戸　かおり　学校教育課係長　佐伯　由里子
地域振興課係長　渡邊　悟史　教育総務課主任　森脇　卓哉
教育総務課主任　岩見　佳奈子
４　次第
（１）　教育長あいさつ
（２）　開会
（３）　資料説明
１）交流センターを核とした地域づくりのあり方検討委員会の現在までの状況説明【資料 1】
２）学校間の距離について【資料 2】
（４）　意見交換
（５）　今後の予定
（６）　閉会

５　内容

（１）　教育長あいさつ

本日は地域別のグループ協議を計画した。本市の目指す教育の実現に向け、基本方針で規模と配置の基準を示しているが、それぞれの地域の実態がある。基本方針に基づき、それぞれの地域でどのような姿、どのような配置が良いのか、また目指すのかについて意見交換をしていただきたい。

（２）　開会

（教育総務課長）
本日は７名の委員の方が欠席、作野会長と川上副会長もご都合により欠席となっている。事務局からの提案だが、本日の第６回会議は、第５回会議と同様の進め方となるので、事務局にて本日の審議会を進行させていただきたいと考えるが、皆様いかがか。
（委員）承認。

（３） 資料説明

〇資料 1、交流センターを核とした地域づくりのあり方検討委員会進捗状況について、地域振興課長が説明。
・平成 19 年度に交流センターを設置。それから 15 年が経過した現在、少子高齢化による人口減少と過疎化が進み、今後地域活動の維持困難、住民自治機能の低下が予想される。持続可能な地域づくりを目指すため、今年度交流センターを核とした地域づくりのあり方検討委員会を立ち上げ議論や視察を実施している。
・地域づくりの方向性、活動のあり方、交流センター機能の最適化、活動に対する行政のかかわり方について現在検討をしている。
・現在の交流センターの合併等は考えていない。24 館ある交流センターの数は維持する。
〇資料 2 について、教育総務課長が説明。

（４） 意見交換

※はじめに学校教育、地域連携、施設整備の 3 グループで分科会（非公開）による意見交換を実施。

全体会で公開にて実施
（教育総務課長）
　最初に、地区ごとの分科会の意見について、座長からご報告をお願いしたい。そのあとで、全体での意見交換を行いたい。

【伯太地区】
・伯太地区の、今の子どもたちの人数のことについて話をした。今の学習スタイルでは、グループで活動したり、友達の意見を聞いたりするためには、ある程度の人数が必要ではないか。1 グループ 4 人、そのグループが 3 つで 12 人、15 人という人数は、必要なのではないか。
・グループ学習のことを考えると、伯太地区だけの議論ではなく、範囲を広げた議論をしていかなければならない。そしてその議論については、今すぐしなければならない、緊急の話である。
・今のことではなく、この先 10 年のことを考えて話をしなければならない。そのためには、いろいろな年代の意見を聞くべきであり、例えば、将来親になるような中学生、高校生といったような年代、若い世代の色々な意見を取り込んでいかなければならないのではないか。
・様々な意見をお持ちの方がある。結論が出て、それを伝えていく際は、議論の経過を伝えたり、事前に意見を出していただく場を持ったりすることで、少しは納得いただけるのではないか。
・学校の立地条件として、安全は欠かせない。ハザードマップをきちんと調べ、避難所として機能するような場所に学校はなければならない。幹線道路沿いである、利便性が良い等も考えた上で、学校の施設を設置することが必要なのではないか。

【広瀬地区】
・広瀬地区は学校がなくなったら地域が衰退するのではないかという意見が結構出ていた。

一方、本当に衰退するのだろうか。さびしいという思いはあるかもしれないが、新しい地域の拠点のあり方や、子ども達にとっての「ふるさと」を考えるなど、そこに踏み込まないといけないのではないかという発言もあった。
・広瀬地域は、範囲が広く通学に時間がかかる。一番遠いところで 1 時間ぐらいかかると思うので、比田のあたりで 3 年生ぐらいまで分校方式にして、高学年になったら広瀬へ出ていくというのはどうか。
・分校方式について、親の考えもあるので保育所や、低学年の保護者さんには特に説明や意見をきくことが必要ではないか。
・人数が少ないというのはネックになるのではないか。ある程度の人数がいないと、競争心も出てこない、意見が言えない子が多いのではないかという心配がある。ある程度の集団の中で子どもたちが育った方が、意見を言い合うことができるのではないか。
・ICT の活用や、オンラインで授業ができるようになったことにより、今のままでも、タブレット等を活用することで、1 人の先生が各校へ向けて授業ができるのではないか。
・しっかり自己主張ができるような子どもに、育てたらいいのではないかという意見があった。日本人はおとなしい子が多いが、外国の子どもたちは自分の意見を持ち、主張して友達も作る。自分の故郷、自分の国には何があるということはっきり言える子が多いように思われる。小さいときから、そのように育てていくためには、ある程度大きな規模が必要ではないか。
・前回、行政の力で広瀬は統合されており、意見が通っていなくて、いまだにしこりを残している地域もある。やはり、適正配置を進めるにあたっては、丁寧な説明があり、地域住民の皆さんが納得した形で進めていかないといけない。

【安来地区】
・具体的な現状ということの問題で、赤江小学校が飯梨川で二分されて、2 つの中学校に分かれるといった校区の問題について意見があった。赤江小学校だけでなく、学校の校区と行政区が別になっている宇賀荘のことも話題になった。こういう校区のことについても検討していかないといけないのではないか。
・小学校から中学校になった時に一気に生活が変わって子どもに余裕がなくなる。親も共働きが多くなり親も必死になっていて余裕がない。そこで子どもの居場所が少しなくなっているように感じる。各交流センターが、親子で共通体験をするような活動をされていて、このような施策ができるといい。
・子どもの現状を考えた上で、子どものみんなが良い方に行ける適正な配置となるように議論していかなければならない。
・標準化し、人数等を平均化してしまいすぎると、今度は地域の個性も減っていくのではないかという心配もあり、そこのバランスのとり方を上手にしないといけない。
・小中学校の適正配置を今考えているが、認定子ども園、保育園を含めて検討したり、高齢者が集まるような施設までを一つの施設にしたりするなども検討してはどうか。今すぐではないが、今後の動きとして、小学校の空き教室を利用し、一つの施設であらゆる世代の人たちが交流できるような体制ができていくのではないかという提案があった。児童クラブが小学校に今もうすでに入っているようなところをモデル校として、その上に子ども園とか、高齢者が集まる場所、高齢者施設等が一緒になって、その世代間交流が進められるような施設を整備していくのはいいのではないか。

（教育総務課長）
　委員の皆様からのご意見があれば、お伺いしたいと思う。
（委員）
　政策推進部の地域振興課の説明があり、現在いろいろな検討をされているが、この委員会として、この教育の関係の適正配置についてのご意見、考え方みたいなのは、特にないか。
（政策推進部長）
　今議論をしている検討委員会の中で、学校の適正化についての具体的な議論というのはない。
（委員）
　地域の交流センターという一つの聖域と、それから学校という一つの聖域があって、そこの連携がどうかというところが一つ大きな課題みたいな形になっていると思う。我々は、教育施設、学校というものの統廃合という中で、地域との関わりがどうかということをいろいろ議論しながらやっている。地域の皆さんは、学校がなくなると、地域が疲弊してしまうという話がやはり多い。これが日本の戦後の政治を含めた形の聖域になっている。これを極端なことを言えば壊していく、考え方を変えていかないと、統廃合というところに繋がっていかないだろうと思う。
　それぞれ特徴がある地域の中で、児童生徒の皆さんがどう関わっていくかということも含めて議論をしていかないと、一つの解決策が見いだせないのではないかなと思う。
　学校は統廃合されて少なくなるが、地域の交流センターを中心とする組織の中に、児童生徒が入り込んで、地域の中での活動をやっていくという将来の形を、ある程度描いていかないと難しいだろうなと思う。
（政策推進部長）
　具体的に、地域づくりのあり方検討委員会の委員の皆様から学校の適正配置、踏み込んで言えば統廃合についてのご意見というものは、伺ってはいないというのが現実。こちら側からすると、説明にもあった通り、まず、今 24 館の交流センターがあるが、この体制は維持しながら、それぞれの地域で活動していただきたいという考え方である。
　今、交流センターが 24 館あり、小学校の数は 17 校ということで、地域によっては小学校がない交流センターがあるが、これはもともと小学校があったが統合してなくなった。ただ交流センターとして、例えば小学校の昔の校舎の中に、交流センターの機能が入り、そこにまた地域の方々が集っていくという形もあるので、そういった形も継続しながらしていただきたいと思っている。
　それから、人材の確保、人材の育成というのは、どこの地区でも、今後心配になっていらっしゃると思っている。視察先での事例も紹介したが、地区の活動に子どもたちがどんどん入ってくる。逆に言うと、大人たちが子どもたちをなるべくそういった活動ができる環境に持っていっているという地区があった。長い目で見て、地区を背負っていく子どもたちとの、地区との、地区の皆さんとの関わり合いというのを持っていただきたいというような形で、今検討を進めている。
（委員）
　よくわかる。安来の中でも比田地域は、児童、生徒の皆さんが直接入り込んだ形での活動もされている。いいモデルが身近にあると思うし、非常にいい取り組みだと思う。
　ただ、学校教育という部分と、地域との関わりという部分をよく考えておかないといけないと思う。

交流センターで話をしていると人的にも固定化しつつあって、昔でいう名誉職みたいな人が館長をやっているが、非常勤である。館長のほかに主事がいて、住民サービス、住民の皆さんとの関わりを中心とした動きになっているが、ある程度、こういった人もコーディネートができるようにレベルアップを図っていくということも必要だろうし、その組織の中に児童とか生徒が入り込んだ形の地域活動もできるような仕組みもつくっていかなければならない。そういったことも含めて、地域振興課そのものも、入り込んだ形でしっかりと人材育成とあわせて、新しい組織化を進めていかないと、適正配置の方向性を示す時に、住民の皆さんに納得はできなくても、理解はしてもらわないといけないわけだから。プロセスの中で、そういう議論をきちんとやって、方向性はこう決めたので、ぜひ理解してくださいということが、堂々と説明ができる体制を作っていかないと、行政としても、前に進めることが難しいと思うので、ぜひその辺の取り組みもあわせて強化していただきたい。

（政策推進部長）

今、地域、交流センター等に対して説明会を実施しており、その中で先ほど説明させていただいたあり方検討委員会での議論についてもご紹介している。適正配置の議論と併せて、地域の方に現状についてはお知らせをして理解を賜っている。

（委員）

先ほど分科会の報告で、宇賀荘校区の話があった。宇賀荘地区は、地域は宇賀荘だが、小学校は社日小学校に通っている。これは、昔の農業水利の関係で、宇賀荘の方から取っている水利を使っているため、宇賀荘の地区に入ることになったと、高齢の方に聞いたことがある。今それがそのまま続いていて、地域は宇賀荘、小学校は社日という現状になっている。

赤江小学校も、川を境に分かれているが、そういうところの見直しを本当にやっていっていただきたい。先ほど他の委員の話にもあったが、子どもが地域に入って活動するのに、社日と宇賀荘のどっちをやればいいのかとなってしまうと思う。

（教育部長）

校区の見直しについては、地域コミュニティーの再編にも関わることで、とても難しい部分はあると思うが、さっき言われた理由を聞く限り、現在考えて、とても合理的な理由ではないと思われるところもある。見直しをしたときに、新たな弊害が出ないのか等、そういうことも総合的に考えて、そういった視点も持って議論を進めていきたいと思う。

（委員）

12 月 18 日の講演会の件だが、先ほどこちらのグループ討議でも、もっと若い人の話を聞いた方がいいとか若い方にこの議論に参画してもらった方がいいという話もあって、託児があるといいと思う。可能なら検討いただきたい。

（教育総務課長）

託児については検討したが、アルテピアという場所、日曜日に保育ができる施設を確保ができなかったので、託児スペースを設けることができなかった。今回はご理解いただきたいと思う。

（委員）

今後のスケジュールについて、先ほどもあったように年齢層も含めて幅広く、意見を聞く場を設けていかないといけない。議論を進める上でロードマップのようなものを作成し、短期間で結論、方向性を見いだしていかなければならない項目、それから中間、3 年とか 4 年ぐらいで方向性、結論を出してい

くもの、それから長期のスパン、10 年とか 15 年先を見据えた形でやっていくもの、こういったものを整理していく必要があると思うがその辺はいかがか。

（教育総務課長）

以前項目のみ記載した基本計画の骨子（案）をお示ししたが、この審議会の委員の皆様に、この計画は一体、何年先を見据えた計画ということを設定していただく。そして、その計画の中でも、即時に行わなければならない項目、一定の時間がかかるもの、ある程度の長期のスパンのかかるもの、そういったものにすみ分けをしなければならないと考えている。

また、その長期スパンであればあるほど、いつの段階で見直しを行わなければならないものなのか、そういったことも含めて、皆さんでさらにご議論をいただき、基本計画に盛り込んでいきたいと考えている。

（委員）

前回、学校施設について議論したときに、こういった部分についてはある程度長いスパンの中で、計画的にやっていかないといけない。学校は避難所だが、現状避難所にならないような学校もたくさんある。その辺をきちんと整理しないといけない。

作野先生も、答申する中身として、選択肢がたくさんあるのではなく、ある程度明確に一つに、こうだよというのを決めていこうという方針を持っておられる。我々としても、項目を整理して、それに対して計画を明確に作って、多くの人に提示し、意見をもらって、それに対して我々も堂々とこたえられるような体制で進めていかないと、全員納得できなくても、理解してもらうところまで持っていくためには、そういうことが必要だろうと思う。

（５）　今後の予定

第 7 回会議：令和 4 年 12 月 20 日（火）午後 3 時から

講　演　会：「みんなで考えよう、安来の子ども達と安来市立小中学校の未来、適正配置を見据えて」

・講演者　島根大学教育学部社会科教育専攻　作野広和教授

・日　時　令和 4 年 12 月 18 日（日）午前 10 時から

・場　所　安来市文化ホール　アルテピア　小ホール

（６）　閉会